



『就任にあたって(ご挨拶)』

産業部会 会長 福山義人



このたび 2025 年 8 月 23
日(土)の総会で望月前会長
(現顧問)の後任として会
長に就任いたしました福山
でございます。就任にあたっ
て一言ご挨拶させていただ
きます。

東アジア経営学会国際連合は日本をはじめとする東アジア各国の経営学者が相互にコミュニケーションをとりながらお互いの研究をより深化させていくことを当初の目的としており、経営学をより深く研究する一助としても、実務として日々経営を行なっている実務家の視点が欠かせないのではないか、という問題意識が共有されていたようです。その為当初の案の中では、学術部会と産業部会を同時に設立しようという構想もあったようです。

ただし設立当初は学術部会を軌道に乗せることで手一杯であり、学術部会が軌道に乗った段階で、東アジア経営学会国際連合の一部門として 2016 年 8 月 28 日明治大学で開催された設立総会を経て産業部会が発足しました。

今、我々を取り囲む環境並びに世界情勢は日々めまぐるしく変化しており、実務としての経営そのものも日進月歩で動いています。そのことは経営の領域を研究対象とされている研究者の皆さんにとっても大きな変化の中に身を置いておられることに他なりませんし、こういう状況であるからこそ研究者と実務家の実践がこれまで以上に連携することが求められているのだと思われます。

東アジア経営学会国際連合・産業部会は学会の規模としてはそれ程大きな組織ではありませんが、研究者の皆さんにとってはこの学会での研究発表や論文の発表はご自身の研究実績リストの中に網羅していただくことが可能ですし、産業人の方はご自身の名刺に会員である旨を記載していただくことも可能です。

研究者と実務家としての産業人が相互のコミュニケーションを深める中でより深い成果を得られるよう、皆さん方のご協力のもと会長として励んでまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願ひいたします。



倫理的リーダーシップの意義と課題 -倫理的リーダーの定義と役割に焦点を当てて-

鈴木貴大氏(日本大学法学部 准教授)



経営学の文脈では企業による不正や不祥事に対して、経営倫理(business ethics)をはじめとしてコーポレート・ガバナンスや企業文化など、さまざまなアプローチにより研究が積み重ねられてきた。しかし、これらのアプローチはいずれも「いかにして健全な制度を構築するのか」という議論に帰着することとなる。実際に、法の枠組みを超えた「経営倫理の制度化(Institutionalizing business ethics)」が、企業による不正や不祥事を防止するひとつの手段として確立されていることから、かかる議論が大きな意義をもつことは言うまでもない。他方で、いかに制度を構築したとしても、これが実際に運用され、組織内に健全な倫理意識(経営倫理)が浸透しなくては、制度の形骸化を招いてしまう。

そこで本研究では、「組織内への経営倫理の浸透には、リーダーシップが重要な役割を担うのではないか」という問題意識のもと、経営倫理の浸透を担う倫理的リーダー(エシカル・リーダー)の定義・役割、そして課題を考察した。

倫理的リーダーとは、自身が高い倫理観をもち、行動やコミュニケーションを通じてメンバーに規範的で適正な行動を促進する経営者やトップ・マネジメント、及び中間管理職のことを指す。とりわけ、企業規模が大きくなればなるほど、中間管理職による倫理的リーダーとしての機能が重要となる。また、リーダーがメンバーを管理する関係ではなく、トランسفォーメーショナル・リーダーシップ(Transformational Leadership: TFL)の考えに立ち、リーダーとメンバーの関係は垂直的でありつつも、メンバーの自立性を重視することが求められる。

しかしながら、倫理的リーダーには以下の課題も存在している。第一に、教育制度の問題である。経営者やトップ・マネジメント、及び中間管理職は自身の管轄をまとめるリーダーとしての役割に加えて、高い倫理観をもつことが求められる。この場合、だれが、どのようにして倫理的リーダーを育成するのか、加えて、他者の倫理観を教育により醸成することが可能なのかといった課題に直面することとなる。第二に、リーダーの影響力の増大である。リーダーが自身の役割に加え、高い倫理観をもつことで、メンバーへの影響力は増大することとなり、メンバーはリーダーを模範として意識するようになる。しかし、リーダーが常に正しい判断や行動をとるとは限らず、リーダーの誤った判断や行動でさえも、メンバーが妄信してしまう危険性もある。

経営倫理とリーダーシップとの関係は萌芽の研究領域である。したがって、この研究をさらに深めていくことが、企業による不正や不祥事を防止することに寄与すると考える。



第25回 サロンのご案内

【講演テーマ】

小阪・夏目・村田編著『21世紀アジア市場と日系企業 －変貌するグローバル化の中の企業と戦略』

慶應義塾大学出版会刊行の意義と課題

【講演者】 小阪 隆秀 氏(日本大学名誉教授) / 村田 大学 氏(和光大学准教授)

日時 / 2025年11月6日(木) 午後8:00~午後9:30(予定)

開催方式 / Zoomオンライン開催

▶プロフィール

小阪隆秀氏

アジア経営学会名誉会長、日本比較経営学会元理事長、NPOアジア環境・エネルギー研究機構副理事長

【研究業績】

「自動車産業の『CASE』をめぐる競争と支配」(小栗崇資・夏目啓二編著『多国籍企業・グローバル企業と日本経済』新日本出版社、2019年)、「製品アーキテクチャーの革新とバリューチェーンにおける『支配』」(大西勝明・小阪隆秀・田村八十一編著『現代の産業・企業と地域経済』晃洋書房、2018年)、その他。

村田大学氏

和光大学経済経営学部准教授、アジア経営学会理事、経営行動研究学会理事

【研究業績】

小阪隆秀・夏目啓二・村田大学編著(アジア経営学会監修)(2025)『21世紀アジア市場と日系企業－変貌するグローバル化の中の企業と戦略』慶應義塾大学出版会、Daigaku Murata (2023) "The Significance of the Indian Economy for the Japanese Corporations: Prospects for the Future after the COVID-19 Pandemic" Japan-South Asia Connections on Economy, Health and Education: Proceedings of the SARC International Conference October 30-31, 2020, South Asia Research Center Soka University,その他。

▶講師からの一言アピール

日本経済は「失われた30年」と言われるように長期にわたって停滞してきた。そして今米国トランプ政権の自国第一主義によってグローバル経済・市場に深い亀裂が入り、世界の企業とともに日本企業は新たな戦略を模索せざるを得なくなっている。この時期に、アジア経営学会は創設30周年を迎えることになった。そこでアジア市場における日系企業が現今の課題にどのような戦略を策定し取り組んでいるかに焦点を絞って記念著書を編むことになった。今回のサロンにおいて、その著書の編集と著述において講演者2名が深くかかわった内容についてご報告させていただきます。

Zoomオンライン開催(お申込み頂いた方に後日、事務局からZoomのミーティングIDとパスコードをお送りします。)

▶参加申し込み方法

参加費は無料ですが、事前の参加申し込みが必要となります。下記の事務局の手続きフォームからお申し込みください。
産業部会事務局 <https://forms.gle/UEmfzWQPV7v4ndaf8>

8月23日、明治大学駿河台キャンパスにて、第10回年次総会を開催いたしました。ご参加下さった皆様に心より御礼申し上げます。本総会では、2016年の産業部会設立以来、会長としてご尽力いただいた望月さんが退任され、福山さんが新会長に就任されました。望月さんの長年にわたるご功績に改めて深く感謝申し上げます。今回は、CO2回収と資源化に取り組む株式会社Eプラスの廣田社長と倫理的リーダーシップについて研究されている日本大学の鈴木貴大先生にご講演いただき、持続可能な産業の在り方について多くの学びを得る機会となりました。産業部会は今後も会員の皆様と様々な視点から学び合い、活発な議論を通じてより良い機会を提供してまいります。福山新会長のもと、さらなる発展を目指して取り組んでまいりますので、引き続きご参加・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。
(文責:産業部会理事 岩本聰)

編集後記

■発行責任者 福山義人(産業部会会長) ■発行日 2025年11月 ■各種問い合わせ 産業部会事務局 風間 信隆
■E-mail info@ifeama-jis.com ■Home Page <https://www.ifeama-jis.com/>